

信仰にある真の子供たち

ホープ・チャペル所沢

第一テモテへの手紙 1：1-11

「この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」(第一テモテ1:5、新改訳)

序文

「イエス・キリストに対する信仰は、宗教ではなく『関係』です。」という言葉 皆さんも聞いたことがあると思います。同様にイエス・キリストに対する信仰は、意義深い係わり合いの中で、身に付くまで（しっかり掴み、個人的に応用できるまで）教えるものです。私たちは、人々が罪と偽りから解放され、全必要が神様によって満たされるように祈り、模範となり彼らを教えることを通して、彼らが神様を愛し、周りの人々や自分自身を愛するようになるために、人々との意義深い係わりを目指します。

1. **パウロは使徒として仕えるようキリストによって選ばれました。(1-2節)**
 - ア) パウロは信仰の模範、そして教師となるようキリスト・イエスにより任命され、遣わされました。
 - イ) テモテはパウロが示した模範と教えを通して、キリストについて行くことを学びました。

2. **私たちが模範になり教えることによって、福音は学ばれ、身に付いて行きます。(3-7節)**
 - ア) テモテは信仰における真の息子として、人々の模範となり教師となるよう、エペソに残されました。
 - イ) 福音は清い心から出る愛と、正しい良心と偽りの無い信仰を目指しています。

3. **モーセの律法は、新約の信徒達に対しても良きもので、助けになるものです。(8-11節)**
 - ア) モーセの律法は、この恵みの時代にもかかわらず重要な意味を持ち続けています。
 - イ) モーセの律法は、罪と義の区別をはっきりさせる為の助けとなるからです。

結論

モーセの律法は、罪と義の違いを明確にする為の良い道具として用いられていますが、神様の御心は、私たちが模範を示し教えることによって人々を助け、彼らがキリストに従っていく者となることです。

私たちの祈りと学び、話し合いと応用のために

- 1) 第一テモテ 1:1-2 を読みましょう。どのようにして、キリストに対する信仰を教え、それを身に付けることが出来ますか。
- 2) 第一テモテ 1:3-7 を読みましょう。イエス・キリストの教えの目的は何ですか。
- 3) 第一テモテ 1:8-11 を読みましょう。なぜパウロは律法が実用的であり良いものだと語っているのでしょうか。